

参 考 資 料

航空写真による漂砂の研究

(地理調査所時報第4集より)

航空写真測量は、土地の測量のみに利用されるものではなく、最近非常に広い範囲に、又種々な研究の手段として用いられるようになってきた。ここに紹介するものもその一つの例であつて、港湾技術者に対しては、或いは貴重な研究資料を提供するであろう。

対称となつているのは、那賀川河口である。那賀川は剣山地に源を発して東流し、紀淡海峡に注いでいる。北の吉野川に比べて三角洲の発達がよく乳房状に突出している。

この調査には3枚の航空写真が利用された。

(図-1. 2. 3 参照) 写真から判読されることは

1. どの写真からも判読出来ること
2. 潮位を異にしていることから判読出来ること
3. 季節を異にしていることから判読出来ること

に大別出来る。

(I) どの写真からも判読出来ること

- (1) 1/25 000 の地形図(図-4)は全然河口附近の状態を異にしている。例えば、一文字砂洲(図上A)の形は、地形図上では海の方へ凸になつているが、写真ではどの写真でも海の方に凹にな

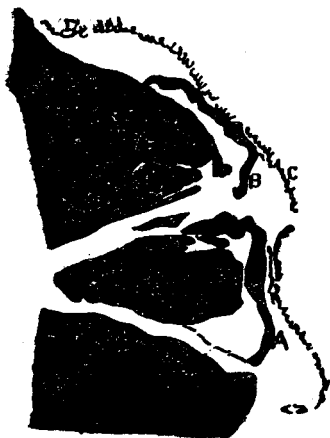
つている。

- (2) 最も海岸線に近い第1砂洲(図上B)は潮位に無関係に海面上に出ている。
 - (3) 河口から吐出された砂は、河口から南へは殆んど流動していない。
- (II) 潮位を異にしていることから判読されること
- (1) 満潮時には、第1砂洲の前面に砂洲が見られないが、中間潮の時には、その姿がうかがわれる。又、第1砂洲の北端から先の砂洲の延長上に最も砂の堆積が多く、この部分が高く海面に露出している。
 - (2) 第2砂洲(図上C)も干潮時には水面上に出る。
 - (3) 第1第2砂洲は河口から北へは発達するが、南には発達していない。
 - (4) 河口の部分では砂洲は海の方に凸になつている。
 - (5) 第1砂洲と海岸線との間の部分は、干潮時には水がひいてどろどろの湿地状になり、しかもその中に水溝が認められる。

図-1 4月干潮時

図-2 10月中間潮時

図-3 1月満潮時



(6) 第 2 砂洲は、砂洲の延長に直角に近い方向に非常に不規則に出入し、しかもそれぞれが又不規則な出入を持つている。

(III) 季節を異にしていることから判讀出来ること

(1) 4 月も 10 月も共に砂北え約 2.5 km 移動し、下刈屋の海岸 (図上 D) 以北では侵蝕されている。又、砂洲の北端は 4 月と 10 月とで変化している。

(2) 波ほどの写真でも南東一東から海岸 (北東に弧を向けている) に当たっている。

(3) 4 月と 10 月と 1 月とでは潮位の差を考慮に入れても形態の変化が見られる。例えば一文字砂洲の南端は地形図に比べてずつとのびており、4 月にはその尖端が海に対して凹であるが、10 月、1 月では凸になっている。

以上から判断すると、那賀川河口砂洲の成長は次のようになる。

河口より吐出された砂は北に漂移し、下刈屋の海岸迄約 2.5 km 移動する。この砂は三角形の前面の海岸線から若干離れた位置に略々海岸線に平行する沿岸洲をつくる。

1 度砂洲が出来ると、砂洲と沿岸線との間が充填されない中に、更にその前面に同様にして第 2 砂洲が出来ると、この場合、最も早く砂を堆積するのは、第 1 砂洲の北端が陸の方に鈎状に屈曲するあたりから砂洲の

延長上で、その部分から更に北では漂砂が第 1 砂洲の形態と同様に陸の方に鈎状に屈曲し、且絶えず動揺している。尙砂洲の高さは、第 1 砂洲で干潮面上 2 m 位である。

このようなことを繰返すことによつて陸地は前進し、且、数列の古い砂洲列が内陸に見られるようになる。

那賀川河口にはこのようにして出来た内陸の砂洲列が見出される。
(丸安隆和)

図-4 1/25 000 地形図



終戦後に於ける名古屋市の人口について

正員 坂元左馬太*

要 旨

本文は名古屋市の推定人口を求めたもので、特に終戦後の人口増加の傾向について調査したものである。

1. 緒 言

名古屋市は慶長 12 年 (1607 年) 徳川義直が旧名古屋野のこの地に封ぜられて、発達の端が開け、明治 22 年 (1889 年) 10 月 市制を敷き、(当時の面積 13.6 km²) 順次周辺の町村を合併、明治 41 年 (1908 年) 4 月 全市を 4 区にわかれ、大正 10 年 (1921 年) 8 月 22 日には近接 16 ヶ町村を併合して人口 43 万人 面積 40.7 km² から一躍夫々 63 万人 148.1 km² に増

*復興建設技術協会中部支部常務理事

大した。

其後埋立地の編入、町村の合併があり、一方産業、経済の中心として順調に発達し、大戦の中期には人口約 140 万、面積 161.7 km² になった。其後疎開及び数次に亘る大爆撃によつて人口は一時 60 万人を下廻るまでに減じた。終戦後急速に市民が復帰して現在 (昭和 24 年 5 月 1 日) 約 967,000 人に回復して居る。

2. 大正 6 年以降の人口

市役所編纂の「名古屋市統計書」等によつて過去の人口を調べ、昭和 22 年 8 月までの実績をもととし、区別の人口密度、都市計画地域別 1 人当り所要面積等